

第 1 回旧本庁舎等跡地活用検討会議

日 時：令和 3 年 1 0 月 2 5 日（月）

午前 9 時～ 9 時 5 0 分

場 所：市役所本庁舎 3 階災害対策本部室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

- (1) 旧本庁舎等跡地活用検討会議の設置について . . . 資料 1 P3

- (2) 旧本庁舎等跡地活用に関する提言書について
 - ①旧本庁舎等跡地活用に関する提言書 資料 2 P4～12
 - ②市民意見 資料 3 P13～29

- (3) 提言内容について検討すべき課題・問題点

- (4) 今後のスケジュールについて 資料 4 P30

4 その他

5 閉 会

旧本庁舎等跡地活用検討会議構成員名簿

役 職	氏 名
市長	深 澤 義 彦
副市長	羽 場 恭 一
教育長	尾 室 高 志
総務部長	浅 井 俊 彦
税務・債権管理局長	坂 本 宏 仁
人権政策局長	武 田 敏 男
危機管理部長	乾 秀 樹
企画推進部長	高 橋 義 幸
経営統轄監	河 井 登志夫
市民生活部長	鹿 田 哲 生
環境局長	国 森 加津恵
福祉部長	竹 間 恭 子
健康こども部長	橋 本 浩 之
経済観光部長	平 井 圭 介
農林水産部長	田 中 英 利
都市整備部長	岡 和 弘
下水道部長	高 木 要 輔

旧本庁舎等跡地活用検討会議設置要綱

(会議の目的)

第1条 旧本庁舎等跡地活用検討会議（以下「会議」という。）は、部局を横断し旧本庁舎等跡地の活用に向けて検討を行うことを目的とする。

(構成員等)

第2条 会議は、市長、副市長、教育長、総務部長、税務・債権管理局長、人権政策局長、危機管理部長、企画推進部長、経営統轄監、市民生活部長、環境局長、福祉部長、健康こども部長、経済観光部長、農林水産部長、都市整備部長、下水道部長で構成する。

2 水道事業管理者、病院事業管理者、鳥取市保健所長は、協議内容に応じて招集する。

(協議事項)

第3条 会議は、次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1) 旧本庁舎等跡地の活用に関する事項
- (2) その他必要と認める事項

(会議)

第4条 会議は市長が招集し、企画推進部長が進行する。

2 会議は公開とする。

(事務局)

第5条 会議の事務局は、企画推進部政策企画課に置く。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和3年10月25日から施行する。

鳥取市長 深澤 義彦 様

旧本庁舎等跡地活用に関する提言書

令和3年10月12日

旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会

「旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会」委員

【順不同・敬称略】

役職	氏名	所属
委員長	柳 年哉	公立鳥取環境大学 経営学部 教授
副委員長	福山 敬	鳥取大学 工学部 教授
委員	飯野 公央	島根大学 法文学部 准教授
委員	木田 悟史	公益財団法人日本財団 鳥取事務所 所長
委員	堤 洋樹	前橋工科大学 工学部 准教授
委員	湯口 夏史	湯口一文税理士事務所 税理士

1 はじめに

- 56年もの長きにわたり、市民の皆様が親しまれてきた鳥取市役所旧本庁舎は、老朽化が進んでおり、令和3年7月から解体工事が行われている。
- 「旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会」では、鳥取市の、「旧本庁舎と第2庁舎が立地していた場所は長年多くの方々に利用され、親しまれてきた全市民の貴重な財産であり、跡地の利活用を検討するに当たり、様々な方法で多くの方々に幅広く意見を伺う」という考えを尊重しつつ、11回にわたり議論を重ねるなど、鳥取市の活性化につながる活用となるよう検討してきた。
- この提言書は、これまでの議論及び市民の意見を踏まえながら、求められる機能とその機能を実現するための活用策について、本専門家委員会での内容を整理し報告と提言をするものである。

2 跡地活用に関する基本的な考え方

- 市民アンケートの結果等も踏まえ、主に次に掲げる活用方針となるよう検討してきた。
 - ・利用者が限定されないような活用を図る。
 - ・市の財政負担（建設費、維持費）を極力少なくする。
 - ・若者の流出抑制・定住促進につながる利用を図る。
 - ・近隣の商店街等の活性化に貢献する利用を図る。
- また、第11次鳥取市総合計画、中心市街地活性化基本計画、地区計画など、当該地区に関連する計画との整合性を図るよう検討してきた。

3 跡地活用策

(1) 提言

跡地活用にあたって、次のとおり取りまとめたので、鳥取市におかれては、一定の方向性を示すための参考とされたい。

- アンケートの結果等からも、鳥取市の防災力向上や防災対策に対する市民の期待は大きい。また、本年7月、8月の大雨が本市にも影響を与えたように、近年では、毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生している。**いかなる活用を行う際でも、防災・減災機能は取り入れることとする。**
- 4つに絞り込んだ活用策とその優位性や課題は次のとおりとした。
 - 【主に「オープンスペース機能」を充実させるための、大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園】

既存施設競合、経済性、公共施設経営の観点で優位性が高い。
 - 【主に「憩いの場・コミュニティ機能」を充実させるための、緑地公園に併設した屋内施設（情報発信施設・ワーケーション施設等）】

集客性・回遊性が見込め、既存施設競合が避けられる可能性がある。
 - 【主に「憩いの場・コミュニティ機能」を充実させるための、市民（学生等）が自由に使える屋内施設（待つ空間・時間を使える空間）】

拠点性、回遊性が見込め、既存施設競合が避けられる可能性があると考えられるが、公共施設経営に課題を残す。
 - 【主に「教育・学習・芸術・文化機能」を充実させるための、多目的ホール】

集客性を高める可能性があるものの、経済性や公共施設経営に課題が残る。
- オープンスペース機能は、市民アンケートにおいて回答が67.8%と最も多く、また、これまでの委員会での議論でも最も支持された機能である。

オープンスペースは、有事ではない平常時において、例えばイベントが開催できるなど、中心市街地のにぎわい創出や憩いの場・コミュニティの場としての活用も期待できるとともに、将来、屋内施設や多目的ホール等の公共施設用地として活用することが必要になった場合にも、活用方法を変更できる可変可能な状態として保持される側面もあり将来的にも汎用性が期待でき、優位性が高いと考える。
- 旧本庁舎等跡地は、防災・減災機能を持ち合わせた、緑地公園を中心としたオープンスペースとして活用し、将来的には、市民のニーズや社会経済情勢等を勘案しながら、屋内施設・多目的ホール等の利用も検討することを提言する。

(2) 附帯意見

①今後の検討

跡地活用にあたっては、全庁で課題を共有し、庁内で幅広く連携しながら、中心市街地における役割、公共施設再配置計画、財政状態等、**考慮すべき鳥取市の諸課題、諸条件を総合的、客観的に検討・整理されたい。**

併せて、現在、鳥取市で検討されている市民会館等文化施設のあり方等も考慮し、**周辺と一体となった活用となるよう検討されたい。**

②検討の継続

アンケートの結果、跡地の活用策の中では、若者を中心に「建物を中心として、一部、広場とする」回答が41.3%と最も多く、建物を建設することに対する要望が少なくなかった。

屋内施設や多目的ホールを求める市民が、一定数いることから、引き続き、経済性や公共施設経営等の観点に留意しつつ、副次的あるいは、将来的な活用策として、教育・学習・芸術・文化機能、憩いの場・コミュニティ機能を充実させることを研究されたい。

また、これまでに市民から提案された多くの活用策についても、**市政推進や政策立案の際の参考にされたい。**

③合意形成の重要性

平成30年度に設置された「本庁舎等跡地活用に関する検討委員会」から、「多くの市民から幅広く意見を伺うこと」や「プロセスの途中で適宜、市民や議会へ情報提供を行うこと」が提案されており、本専門家委員会と鳥取市においては、この提案を尊重しながら議論を進めてきた。

市として、中・長期的な観点で、目まぐるしく変化する社会経済情勢や多様化する市民ニーズに的確に呼応することを考えなければならない。今後においても、**様々な施策を検討する場面で、今回同様に市民から幅広く意見を伺うとともに、市を取り巻く環境や諸条件を含め、市民への情報提供を分かりやすく・積極的に・適時に行う方法・方針を大切にされたい。**

④その他重要な視点

活用策決定後は、その**活用策の工程表を作成するなどし、遅滞なく実現できるよう努められたい。**

また、活用する際は、民間の資金・ノウハウを積極的に取り入れるなど、**市民・民間と一緒に持続可能な取り組みを期待する。**

その際、「鳥取市らしさ」をキーワードとして、**鳥取市の魅力が発揮できる、鳥取市ならではの運用方法も検討されたい。**

4 検討の経過

(1) 機能の絞り込み【令和2年度】

ステップ1

ストリートミーティング、各種団体との意見交換会、市民ワークショップ等を開催し、市民参画により、幅広い様々な意見を伺い、そのすべての意見を17の機能に分類した。

①防災・減災、②教育・学習、③芸術・文化、④医療・福祉、⑤健康増進、⑥コミュニティ、⑦娯楽・レジャー、⑧オープンスペース、⑨業務、⑩飲食、⑪居住、⑫金融・サービス、⑬商業、⑭行政、⑮観光・コンベンション、⑯交通、⑰宿泊

経緯 市民からいただいたすべての意見を、標準産業分類表や第11次鳥取市総合計画を基に、市民にとってイメージが湧きやすい、平易な言葉を使いながら、17の機能に分類した。

ステップ2

その後、専門家委員会で議論し17機能を12機能に絞り込み、市民2,000人を対象にアンケート調査を実施した。

①防災・減災、②教育・学習、③芸術・文化、④医療・福祉、⑤健康増進、⑥憩いの場・コミュニティ、⑦娯楽・レジャー、⑧オープンスペース、⑨ビジネス、⑩生活基盤充実、⑪観光・コンベンション、⑫交通

経緯 機能を絞り込むため、業務機能と飲食機能を集約しビジネス機能とした。さらに、金融・サービス機能、商業機能、居住機能、行政機能を集約し生活基盤充実機能とした。また、宿泊機能は地区計画により規制されているため検討しないこととし、最終的に12の機能に絞り込んだ。

ステップ3

市民アンケートの結果等から、次のA～Eの5つの機能に絞り込んだ。

- A 教育・学習・芸術・文化機能
- B 医療・福祉・健康増進機能
- C 憩いの場・コミュニティ機能
- D 娯楽・レジャー機能
- E オープンスペース機能

なお、いかなる活用を行う際でも、防災・減災機能は取り入れることとした。

経緯 アンケートの結果で回答が多かった、防災・減災、教育・学習、芸術・文化、医療・福祉、健康増進、憩いの場・コミュニティ、娯楽・レジャー、オープンスペースについて活用策を検討することとした。併せて、類似機能である教育・学習機能と芸術・文化機能を教育・学習・芸術・文化機能に、医療・福祉機能と健康増進機能を医療・福祉・健康増進機能に集約し、最終的に5つの機能に整理した。また、いかなる活用を行う際でも、防災・減災機能は取り入れることとした。なお、今回検討しないこととした4つの機能（ビジネス、生活基盤充実、観光・コンベンション、交通機能）については、副次的・将来的な活用策として引き続き検討することとした。

(2) 活用策の絞り込み【令和3年度】

ステップ4

絞り込んだ5つの機能を基にワークショップ、専門家委員会で、様々な活用策を議論・検討した。そして、自由記載も含め次の21の活用策の選択肢を選定し、市民2,000人を対象にアンケートを実施した。

経緯 ワークショップで各班の意見として取れんさせた活用策と、専門家委員会で提案した活用策に、自由記載を加えた21の機能別活用策に整理した。なお、選択肢としなかったワークショップでの意見は別冊にまとめ、アンケート回答の際の参考とすることとした。

5つの機能	活用策
A 教育・学習・芸術・文化	①小学校統廃合用地 ②若者の学習拠点 ③環境・防災学習の場 ④市営駐車場に併設した避難所生活体験施設 ⑤美術館（展示機能、市ゆかりの文化人をたたえる機能等） ⑥多目的ホール ⑦市民ギャラリー ⑧歴史・文化の発信の場 ⑨その他【自由記載】
B 医療・福祉・健康増進	⑩【自由記載】
C 憩いの場・コミュニティ	⑪市民（学生等）が自由に使える屋内施設（待つ空間・時間を使える空間） ⑫緑地公園に併設した屋内施設（情報発信施設・ワーケーション施設等） ⑬その他【自由記載】
D 娯楽・レジャー	⑭【自由記載】
E オープンスペース	⑮イベント広場（出店しやすい工夫をした市場） ⑯カフェ併設広場 ⑰緑地公園 ⑱庭園 ⑲大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園 ⑳体験型防災公園 ㉑その他【自由記載】

(3) 活用策の評価【令和3年度】

ステップ5

アンケート結果等を基に、専門家委員会で議論し、A～Eの機能・①～⑭の活用策を次の3つの機能、4つの活用策に絞り込み、それらを下表「活用策の評価基準」に沿って評価した。活用策の取りまとめは、**3 跡地活用策**のとおりである。

- A-⑥「教育・学習・芸術・文化機能」を充実させるための、多目的ホール
- C-⑪「憩いの場・コミュニティ機能」を充実させるための、市民（学生等）が自由に使える屋内施設（待つ空間・時間を使える空間）
- C-⑫「憩いの場・コミュニティ機能」を充実させるための、緑地公園に併設した屋内施設（情報発信施設・ワーケーション施設等）
- E-⑬「オープンスペース機能」を充実させるための、大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園

経緯 アンケートの結果を踏まえ、回答数が多かった4つの活用策に絞り込んだ。なお、回答数4位のイベント広場は緑地公園に併合することとした。

【活用策の評価基準】

評価項目		評価基準	
大項目	小項目		
ア	全市民が利用することができる活用	全市民が利用することができる活用	
イ	にぎわい 創出・地域活性化への貢献	①拠点性	若者の流出抑制・定住促進につながる活用
		②集客性	市内・外から多くの人を惹きつけることができる活用
		③回遊性	中心市街地の他の施設や資源と連携して、回遊性を創出することができる活用
		④既存施設競合	既存施設との競合や、民業圧迫が懸念されない活用
ウ	財政負担の軽減	⑤経済性	市の財政負担を極力少なくする活用
		⑥柔軟性	将来の市民ニーズ、社会情勢の変化等に的確に呼応し、柔軟に利活用できる活用
エ	関連計画との整合性	⑦周辺環境との調和	周辺の歴史・文化環境と調和し、地域の魅力を高めることができる活用
		⑧公共施設経営	40年間で、施設面積約29%削減を目標とする公共施設経営への貢献が期待できる活用
		⑨創生総合戦略との関連	鳥取市が掲げる「ひとづくり」「しごとづくり」「まちづくり」の推進が期待できる活用

(4) 「旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会」会議開催経過

回	開催日	主な審議内容
1	R2.5.25	<ul style="list-style-type: none"> ・活用策検討プロセス ・活用策検討スケジュール ・鳥取市の計画・現状・課題
2	R2.8.3	<ul style="list-style-type: none"> ・提示する市の基本情報 ・求められる機能の市民意向把握
3	R2.12.25	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参画による跡地活用に関する意見 ・R2年度市民アンケート(R3.2.1～2.19実施)の設問設定
4	R3.3.23	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度市民アンケート結果の整理・分析 ・「求められる機能」の選定
5	R3.4.1	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な考え方の整理 ・「求められる機能」の選定
6	R3.5.19	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度市民ワークショップ(R3.6.5・6実施)の進め方 ・R3年度市民ワークショップで示す市の現状や考え方
7	R3.7.1	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度市民ワークショップ結果の整理・分析 ・R3年度市民アンケート(R3.7.30～8.16実施)の設問設定 ・比較・評価項目の設定
8	R3.7.15	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度市民アンケートの設問設定及び参考資料の確定
9	R3.8.26	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度市民アンケート結果の整理・分析 ・比較・評価する活用策の選定 ・旧本庁舎等跡地活用に関する提言書の内容確認
10	R3.9.2	<ul style="list-style-type: none"> ・活用策の比較・評価 ・旧本庁舎等跡地活用に関する提言書の内容協議
11	R3.9.29	<ul style="list-style-type: none"> ・旧本庁舎等跡地活用に関する提言書の確定

市民意見について

1 ワークショップ (R3.6/5・6 22名参加)

(1) R3.6/5①班【5名】

機能	選択者数		跡地に必要と思う主な活用策
	メイン	サブ	
A 教育・学習・ 芸術・文化	3	0	美術館、音楽ホール (300人)、観光コンベンション機能と物産館機能、カルチャーセンター、美術館 (展示機能)
B 医療・福祉・ 健康増進	0	0	—
C 憩いの場・ コミュニティ	1	2	多目的小ホール (イベント用)、子ども食堂 (孤立化防止)、自由に入出りできる屋内スペース
D 娯楽・レジャー	0	0	—
E オープンスペース	1	1	多機能コミュニティ広場、自由度の高い広場など、イベントなどができたりする広場
【班のまとめ】			
①教育・学習・芸術・文化を充実するため、市民 (コミュニティ) のための美術館を中心に、多目的のホールやイベント広場として活用します。			

(2) R3.6/5②班【6名】

機能	選択者数		跡地に必要と思う主な活用策
	メイン	サブ	
A 教育・学習・ 芸術・文化	2	2	ミュージアム、文化施設、多目的ホール、アート
B 医療・福祉・ 健康増進	0	0	—
C 憩いの場・ コミュニティ	1	1	芝生広場とし子育て機能を充実させる、移住・定住につながる活用、鳥取ならではのキーワード
D 娯楽・レジャー	0	1	映画館
E オープンスペース	3	0	市場、多様な活用
【班のまとめ】			
①オープンスペースを充実するため、広場を中心に来店しやすい工夫をした市場などとして活用します。			
②教育・学習・芸術・文化及びオープンスペースを充実するため、文化施設・市民ギャラリー、広場などを中心に市民の交流の場として活用します。			
③教育・学習・芸術・文化を充実するため、ミュージアムを中心に鳥取の歴史、文化の発信の場として活用します。			

(3) R3.6/6①班【5名】

機能	選択者数		跡地に必要と思う主な活用策
	メイン	サブ	
A 教育・学習・ 芸術・文化	4	1	童謡・唱歌・マンガのコーナー、子ども喫茶+国際交流喫茶、こども文庫、童画の展示、楽器演習、スポーツジム、囲碁、将棋の常打室、総合防災教育研修センターの設置、市内の防災跡を巡るルートのスタート地点、市民会館を改装して文化的施設、いろいろな機能を統合、音楽ホール、小さな美術館、小さな図書館、映画館、遷喬・久松・醇風統合小学校、遷喬義務教育学校、NHK文化センター、多機能ホール(300人位まで)、コンサートホール、講演、映画
B 医療・福祉・ 健康増進	0	0	—
C 憩いの場・ コミュニティ	0	2	公民館、市立美術館
D 娯楽・レジャー	0	1	スーパーマーケット、プラネタリウム、天文台
E オープンスペース	1	0	子ども遊園(例：重箱緑地)、芝生のフリースペース
【班のまとめ】			
<p>①教育・学習・芸術・文化及びオープンスペースを充実するため、子供たちの学びを中心に、環境学習や防災学習の場（総合防災教育研修センター）やこども遊園として活用します。</p> <p>②教育・学習・芸術・文化を充実するため、鳥取市ゆかりの文化人をたたえる美術館を中心として活用します。</p> <p>③中心市街地での住みよい環境づくりを推進するため、小中学校の充実強化やスーパーの誘致等に活用します。</p>			

(4) R3.6/6②班【6名】

機能	選択者数		跡地に必要と思う主な活用策
	メイン	サブ	
A 教育・学習・ 芸術・文化	2	1	図書館、学校、若者の応援拠点
B 医療・福祉・ 健康増進	0	0	—
C 憩いの場・ コミュニティ	1	0	人が集まる、滞在する場所
D 娯楽・レジャー	0	0	—
E オープンスペース	3	1	広場、花壇・ガーデン、多目的広場
【班のまとめ】			
<p>①教育・学習・芸術・文化及びオープンスペースを充実するため、若者の拠点・広場として活用します。</p> <p>②教育・学習・芸術・文化を充実するため、図書館として活用します。</p> <p>③憩いの場・コミュニティを充実するため、待つ空間・時間を使える空間（自由に使える空間）として活用します。</p>			

2 アンケート

実施概要

実施時期	令和3年7月30日～8月16日
実施方法	郵送による配布・回収
対象者	18歳以上の市民2,000人（無作為抽出）
回答者数	847人（回収率42.4%）
送付資料	依頼文 市民アンケート調査票 （別冊）みんなで一緒に考えましょう 鳥取市の将来

みんなで一緒に考えましょう 鳥取市の将来 ～日本庁舎等跡地の活用～

市民アンケートにご協力をお願いします。

○56年もの長きにわたり、市民の皆様に親しまれてきた鳥取市役所旧本庁舎は、老朽化が進んでいるため、現在、解体をしています。

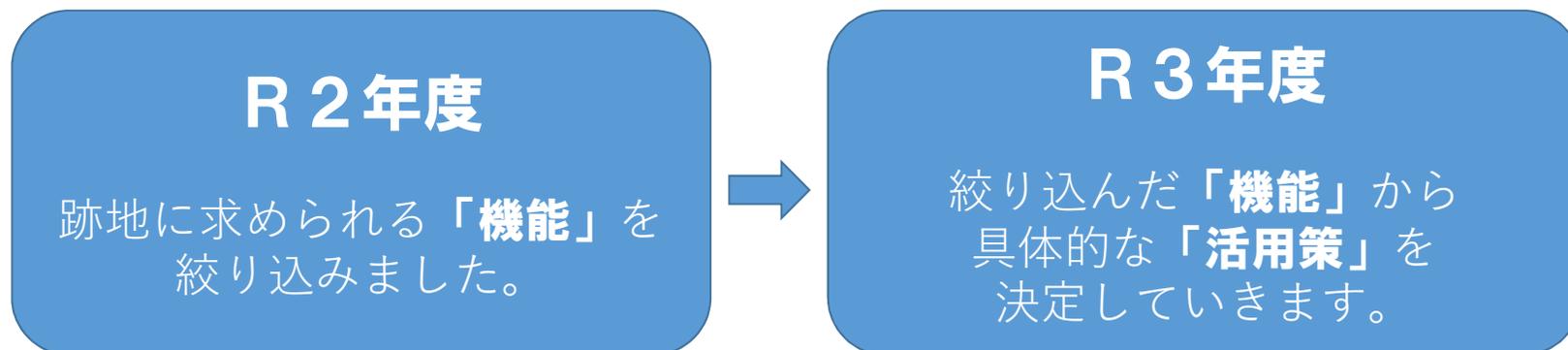
○旧本庁舎・第二庁舎が立地していた場所は、長年多くの方々にご利用され、親しまれてきた全市民の貴重な財産であると考えています。

そのため、本市では、跡地の活用策を検討するにあたり、できる限り多くの方々から幅広くご意見をお伺いすることとし、このたび、

「アンケート調査」を実施いたします。

○お答えいただいたご意見を参考にさせていただき、本市の活性化につながる活用策となるよう、丁寧に検討していきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。

○なお、本資料は、求められる機能や活用策を検討していただくにあたり、「求められる機能の絞り込みの経緯」、「これまで市民参画等により議論された活用策」、「跡地の概要」等を取りまとめていますので、ご参考にさせていただきますようお願いいたします。



鳥取市
令和3年7月

「求められる機能」の絞り込みの経緯

令和2年度から実施した市民参画による、各種団体との意見交換、市民ワークショップ（※1）、ストリートミーティング（※2）等の議論を通じて、本庁舎跡地に求められる機能を5つに絞り込みました。本アンケート調査では、この5つの機能を基に、あなたのお考えを聞かせて下さい。



市民ワークショップ(※1):市民参画により跡地活用策を話し合う手法の1つ。参加者が主役になって、班員と交流・創造しながら議論し取りまとめる場

ストリートミーティング(※2):地方創生のカギとなる次代を担う若者と市長が直接対話し、その意見や要望を施策に反映させる仕組み

専門家委員会(※3):跡地活用策について一定の方向性を示すために、専門的見地から適切な意見・提言を行う「旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会」のこと。学識経験者6名で構成。

これまで市民参画等により議論された活用策

5つの求められる機能を基に具体的な活用策について、市民ワークショップや専門家委員会等で様々な提案がされてきました。こうした提案について、類似の活用策の集約や、現状では活用策としてなじまないものなどについて、専門家委員会の議論を経た上で整理を行い、下表右列のとおり取りまとめたしました。

これらを参考にしながら、『旧本庁舎跡地に必要と思う活用策』を、ご提案ください。

機能	市民ワークショップ、専門家委員会等で議論された活用策		活用策の取りまとめ (防災・減災機能は、いかなる活用を行う際も取り入れる)
	活用策	活用策としない理由	
A 教育・学習・ 芸術・文化	学生交流施設、美術館(展示機能含む)、音楽ホール 小学校統廃合用地、総合防災教育研修センター、若者の学習拠点、カルチャーセンター、多目的ホール、市民ギャラリー、子ども教育施設 【提案されたが活用策としないもの】 図書館、専門学校、観光コンベンション施設、物産館、団体の事務局・練習場	図書館 : 市立図書館が約1kmの位置にあり現段階では新たに整備する計画はない。新たに整備する場合はファシリティマネジメントの観点から現図書館の移設となる 専門学校 : 市としての設置は検討していない 観光コンベンション施設・物産館 : 「観光・コンベンション機能」は、A～Eの5つの機能に該当しないため 団体の事務局・練習場 : 施設の利用方法の一例であるため	①小学校統廃合用地 ②若者の学習拠点 ③環境・防災学習の場 ④市営駐車場に併設した避難所生活体験施設 ⑤美術館(展示機能、市ゆかりの文化人をたたえる機能等) ⑥多目的ホール ⑦市民ギャラリー ⑧歴史・文化の発信の場
B 医療・福祉・ 健康増進	・子育て支援の場所 民間活力を活用 ・病院もある複合施設 ・健康増進スポーツ施設		—
C 憩いの場・ コミュニティ	コミュニティセンター、高齢者向けサロン、イベント・行事・交流会場、地域食堂(子ども食堂)、自由に出入りできる屋内スペース、市民(学生等)が自由に使える施設(待つ空間・時間を使える空間) 【提案されたが活用策としないもの】 公民館、移住・定住につながる活用、鳥取ならではのキーワード、人が集まる、滞在する場所	公民館 : 既存施設を活用する計画のため 移住・定住につながる活用、鳥取ならではのキーワード、人が集まる、滞在する場所 : 活用策ではなく活用のテーマのため	⑪市民(学生等)が自由に使える屋内施設(待つ空間・時間を使える空間) ⑫緑地公園に併設した屋内施設(情報発信施設・ワーケーション施設等)
D 娯楽・ レジャー	民間活力を活用 ・温泉施設 ・劇場 ・映画館 ・アミューズメント施設 ・テーマパーク 【提案されたが活用策としないもの】 プラネタリウム、天文台、スーパーマーケット	プラネタリウム、天文台 : 「さじアストロパーク」の機能と重複するため スーパーマーケット : 「生活基盤充実機能」は、A～Eの5つの機能に該当しないため	—
E オープン スペース	・緑地公園 ・多目的広場 ・イベント広場 ・全天候型イベント広場 【提案されたが活用策としないもの】 交流の場	交流の場 : 活用策ではなく活用のテーマのため	⑮イベント広場(出店しやすい工夫をした市場) ⑯カフェ併設広場 ⑰緑地公園 ⑱庭園 ⑲大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園 ⑳体験型防災公園

これまでの議論の整理

- ☑本市のにぎわいづくりにつながる活用策とする。
- ☑利用者が限定されないような活用を図る。
- ☑市の財政負担を極力少なくする。
- ☑若者の流出抑制・定住促進につながる活用を図る。
- ☑いかなる活用を行う際でも、防災・減災機能は取り入れる。
- ☑既存の施設（機能）がある場合は、棲み分けを考慮する。
- ☑市民会館は、当面、存続するものとして考える。
- ☑複合化・多機能化の活用の検討は妨げない。
- ☑活用の手法（民間活用など）について、ここでは考慮する必要は無い。
(活用の手法は、活用策実現にあたり市で判断する。)

鳥取市旧庁舎等跡地について

旧日本庁舎等跡地の概要



ここは、本市の中心市街地に位置し、かつて城下町として栄えた地域です。たび重なる災害により歴史的町並みは残っていませんが、城下町全体の変遷を知るうえで非常に重要な薬研堀の遺構が残されていることが判明するなど、歴史的・文化的価値の高い土地です。また、中心市街地活性化基本計画では、「**歴史・文化等を有する観光交流、豊かな居住の舞台**」をエリアコンセプトとする、本市の飛躍・発展に貢献する重要な場所です。

土地利用規制など

	本庁舎跡地	第二庁舎跡地
用途地域	商業地域	商業地域
容積率/建蔽率	400/80 (一部500/80)	400/80 (一部500/80)
地区計画	尚徳町地区地区計画※1	—
景観形成重点地区	久松山山系景観形成重点区域※2	—

※1 地区計画により、次の建築物は、建築を制限されています。

- (1) 工場
- (2) ボーリング場、スケート場、水泳場、スキー場、ゴルフ練習場、バッティング練習場
- (3) ホテル又は旅館
- (4) 自動車教習所
- (5) 畜舎（15㎡を超える）
- (6) マージャン屋、パチンコ屋、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場その他これらに類するもの
- (7) 倉庫業を営む倉庫
- (8) 危険物の貯蔵又は処理に供する建築物
- (9) キャバレー、料理店、ナイトクラブ、ダンスホールその他これらに類するもの
- (10) 個室付浴場業に係る公衆浴場 など

※2 景観形成重点地区に指定し、周辺の緑や歴史的建造物等との調和を図る地区と位置付けています。

鳥取市の現状や考え方

財政の見通しは？

- ☑ 本市は、「選択と集中」による財政運営を実践
- ☑ 新型コロナウイルス感染症の地域経済への影響等で、厳しい財政運営になることが予想
- ☑ 中長期的な展望に立ち、計画的な財政運営を進める

出典：第11次鳥取市総合計画

✓市債残高(借入金残高)と公債費(毎年の返済額)を削減します

項目	平成23年度	令和3年度	令和7年度	令和12年度
市債残高	770億円	781億円	768億円	721億円
公債費	102億円	60億円	58億円	53億円
市債(新規借入)	42億円	109億円	50億円	40億円

※平成23年度は一般会計決算、令和3年度は当初予算、以降は財政見通し(以下同じ)市債は一般事業分(臨時財政対策債を除く)

✓緊急的な収入減などに対応する基金(貯金)を積み立てます

項目	平成23年度	令和3年度	令和7年度	令和12年度
財調基金等	24億円	42億円	50億円	51億円

※不測の事態に備えるための財政調整基金と減債基金の合計残高を50億円以上(令和7年度末)とする

✓地域経済の活性化や市民所得の向上に取り組みます

項目	平成23年度	令和3年度	令和7年度	令和12年度
市税収入	239億円	225億円	236億円	236億円

✓プライマリーバランス(基礎的財政収支)を黒字化します

※当初予算における市債以外の収入と公債費を除く支出の収支(臨時財政対策債除く)

【参考】財政規模

項目	平成23年度	令和3年度	令和7年度	令和12年度
一般会計(歳出)	888億円	964億円	926億円	909億円
うち扶助費	151億円	206億円	211億円	216億円
うち建設費	96億円	133億円	96億円	86億円

※コロナ対策制度融資を除く(R3:143億円、R7:76億円、R12:8億円)、建設費は普通建設事業費と維持補修費の合計

※扶助費：社会保険制度の一環、生活弱者、高齢者、児童等の生活を維持するために支出する経費

人口の見通しは？

- ☑ 本市の人口は、少子化や転出超過等から、H17年の国勢調査人口20万1,740人をピークに減少傾向
- ☑ R7年には18万2,777人、R12年には17万7,621人に減少すると見込む

出典：第11次鳥取市総合計画

項目	平成17年	令和2年	令和7年	令和12年
人口(人)	201,740	188,717	182,777	177,621

公共施設の経営は？

「鳥取市公共施設再配置基本計画」により公共施設経営(ファシリティマネジメント)に取り組む

目標：40年間(令和36年度)で、施設面積 **約29%削減**

▶複合化・多機能化は？

- ☑ 1施設1機能ではなく、複合化・多機能化
- ☑ 拠点性を高め、稼働率・利用率を向上

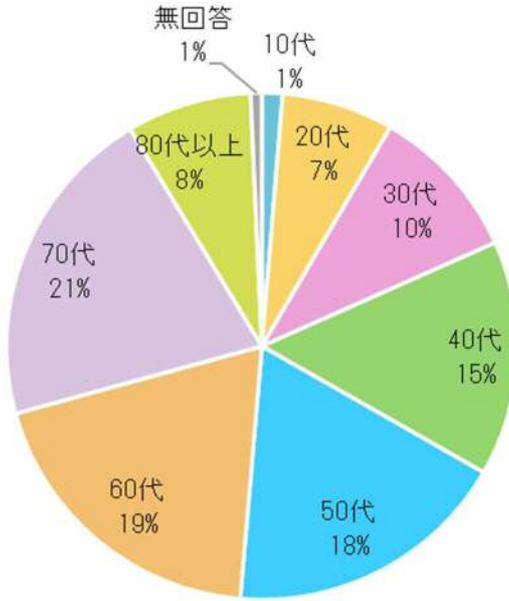
▶民間活用は？

- ☑ 民間資本やノウハウの活用を推進
- ☑ 市民・民間事業者からの提案制度等の導入を検討し、公共施設経営に参画しやすい環境づくりに取り組む

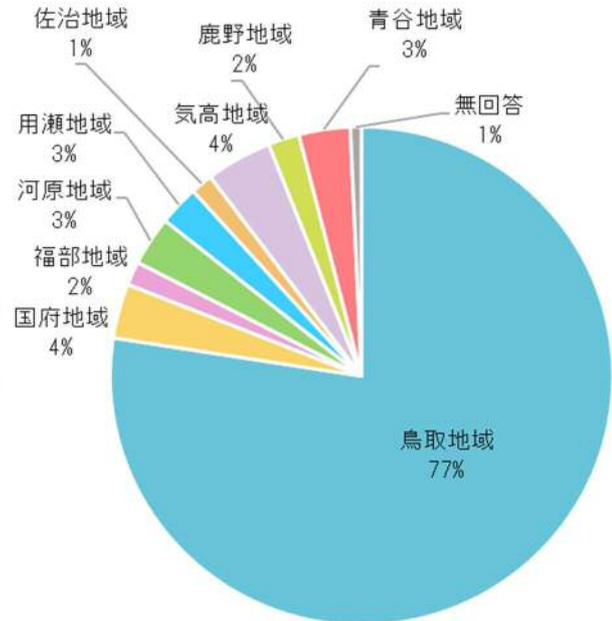
調査結果

(1) 回答者の属性 (年齢、居住地域)

- ・回答者の年齢は、70代、60代、50代の順で多く、50代以下 (51%) と 60代以上 (48%) が概ね半数ずつとなっている。
- ・居住地域別では、鳥取地域が 77% を占め、多数となっている。



【回答者の年齢】



【回答者の居住地域】

(2) 跡地の活用策

旧本庁舎等跡地に必要と思う活用策

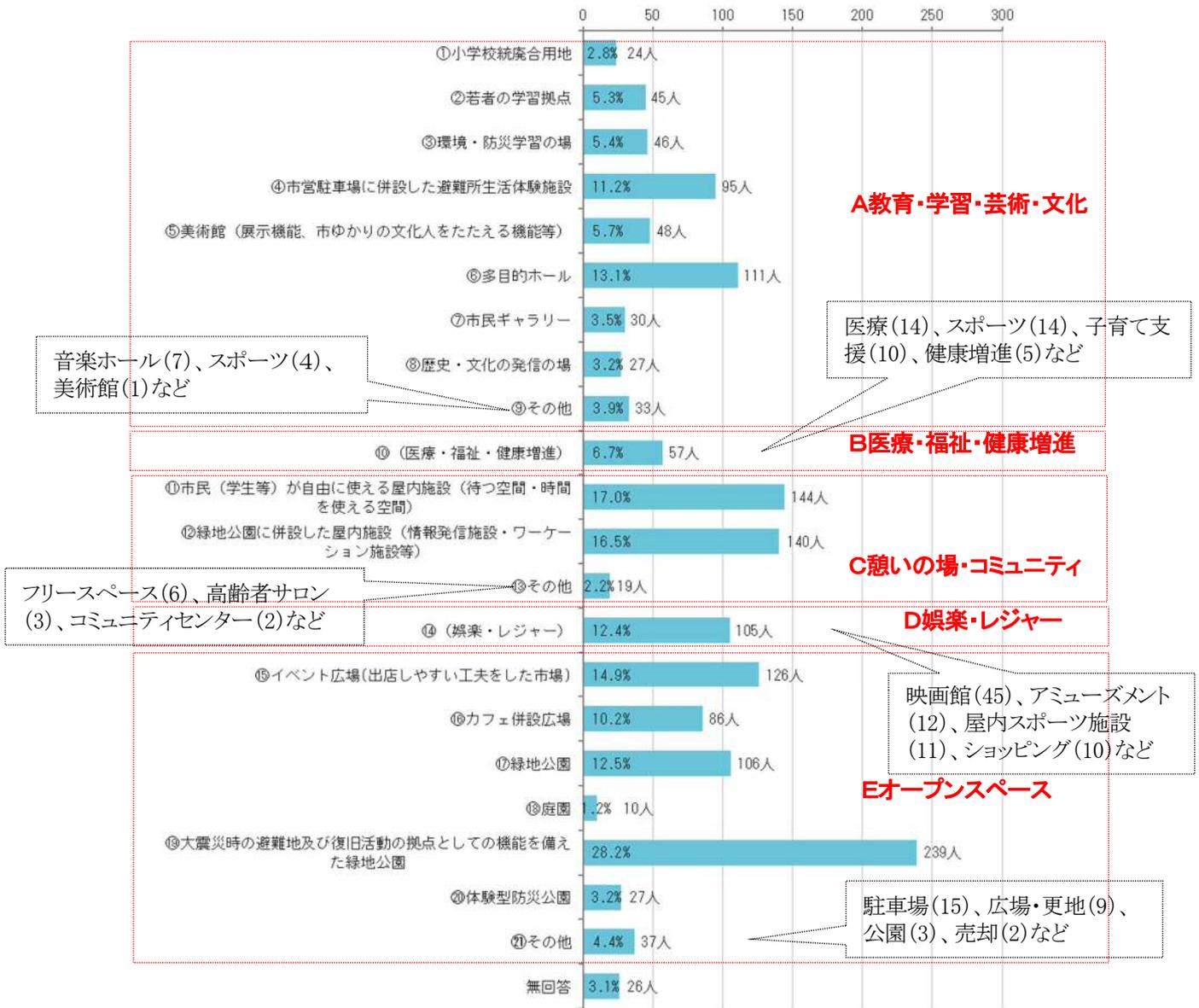
①～⑳の活用策の中から、1つないし2つ選択。

A～Eの5つの各機能からは1つだけ選択という条件を付した。

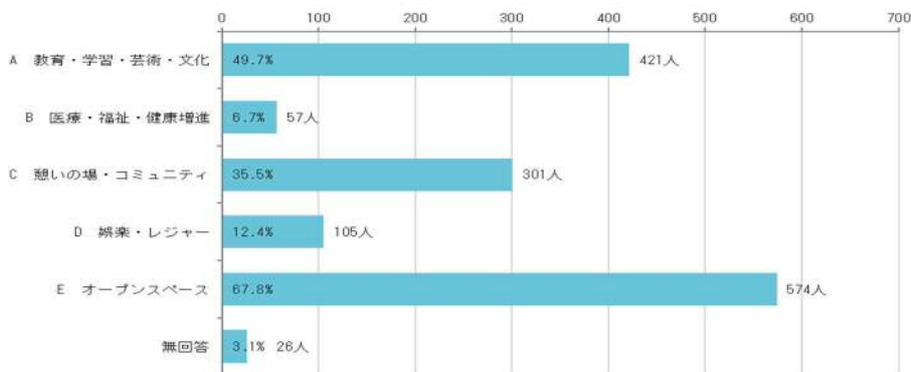
ただし、貴重なデータを有効活用する観点から上記条件を満たさないものも含んで集計した

- ・21の活用策では、⑲大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園が最も多く、次いで、⑪市民 (学生等) が自由に使える屋内施設 (待つ空間・時間を使える空間)、⑫緑地公園に併設した屋内施設 (情報発信施設・ワーケーション施設等)、⑮イベント広場 (出店しやすい工夫をした市場)、⑥多目的ホールの順で回答が多い。
- ・5つの機能別に集計すると、E オープンスペースが最も多く 67.8%、次いでA 教育・学習・芸術・文化 (49.7%)、C 憩いの場・コミュニティ (35.5%) であった。

※%の数値は、各項目の回答数を回答者数 (847人) で除して算出 (複数回答のため合計は100%を超える)



【旧本庁舎等跡地に必要と思う活用策の回答数・%】



【旧本庁舎等跡地に必要と思う活用策の機能別集計の回答数・%】

(3) 活用策を選択した理由や具体的な内容・イメージ(抜粋)

①小学校統廃合用地
<p>天気に左右される事なく利用できるものがよい 町なかに入り、十分な広さがあるため、小学校に利用できそう。 市街地の小中学校の児童生徒の減少を聞きます。統廃合が必要となるのでは。 遷喬小、日進小、久松小を合併して、一つの小学校にする。</p>
②若者の学習拠点
<p>若者が増え、賑わいが生れる。私立の学校で県外からの進出でもよいのでは。 学習施設や公園といった親子・家族で学べる、かつ雨や雪の日でも遊べる施設が欲しい。 職業体験のできるものなどあそびと学びを兼ねた場。 子どもの学習スペースが少ない 図書館の学習コーナーもいつも満員で使えない</p>
③環境・防災学習の場
<p>最近、大雨や地震等の災害が全国的におこっています。その時々の様子や対処方法をビデオ等によって見たりすることによって各個人が身をもって考える習慣を身につけることが大切だと思います。ビデオ視聴室、起震車体験室、必要な備蓄物資室等の教室作りがされたいと思います。 近年の環境変化、大型災害に対応する施設及び空間が必要 地球温暖化により想定外のことが発生している。環境問題と防災教育の場として子供から大人までいつでも学習出来る場や体験出来る公園など 施設として</p>
④市営駐車場に併設した避難所生活体験施設
<p>防災については、忘れてはならない問題であるから 病後やけが後のリハビリ場所があると安心だから 周辺の商店街活性化のためには、安価に利用できる大収容の立体駐車場が不可欠です。防災や避難所の機能も考えるのであれば、立体で耐震性のある駐車場を備えて、駐車料には補助金を反映させた方がいい</p>
⑤美術館(展示機能、市ゆかりの文化人をたたえる機能等)
<p>県立美術館が倉吉市に設置され、県立博物館の美術部門が鳥取市になくなるので、鳥取市立美術館で美術作品を鑑賞したい。(米子市立美術館はよい活動されていると思う。) 県内の米子市、倉吉市には美術館はありますが鳥取市にはありません。多くの美術者、書家の方達の展示発表する所があると多くの方々活動発表出来ます。 県東部に常設美術館があってもいい。</p>
⑥多目的ホール
<p>市民会館も老朽化してきている為、今後の取りこわしを想定して、多目的ホールを作るのがよいかと思いました。また、自然の中にあるのも良いと思うので、緑地公園のような広場もあるのが理想的だと思います。 市民が自由に利用できる場所の確保と活用できる状況をうまくからめて作成してほしい。 様々な世代が多目的に使用できる施設が、汎用性があり、有効活用できると考えたから。</p>
⑦市民ギャラリー
<p>雨が降っても使用できますように 県立博物館やギャラリーはあるが、駐車スペースが狭かったりコイン@に停めないといけないので駐車スペースが広いギャラリーがあったら良いと思う。 勤め人、一般人の自由時間で習い事ができる場があるとよいと思います。そして、作品を展示する会場があると創作意欲につながり、仲間づくりにも効果的です。元気な市民が増えます。</p>
⑧歴史・文化の発信の場
<p>鳥取城跡と連動した歴史文化の発信基地とする。 最近の豪雨災害対応出来るような拠点とする。 日本の文化を継承するための場所 高砂屋の移築。高砂屋を中心に伝統文化の拠点にする 町並の復元し交流の拠点を作る</p>

⑨その他
洋楽・邦楽どちらにも対応できる、音響が良く、調弦室、控室、駐車場が完備し、しかも利用料金の安価な客席300程度の小ホールが欲しいです。
跡地は、NHK 鳥取放送局に売却又は賃貸契約する選択肢は無いのでしょうか。 現在のNHK 鳥取放送局は、敷地も建物も狭いため、公共放送としての使命を十分に果たしているとは言い難い気がする。跡地に新設し、教育・学習・芸術・文化に貢献して欲しいと願う者です。
多目的ホール、カルチャーセンターなどは多少なりとも市にあると思うが、音楽ホールというのはない。音質の良いホールで、開くことは、未来のある子ども達にとっても有用だと考える。もっと身近に、音楽を楽しむ場所がほしい。
⑩医療・福祉・健康増進
低価格で利用できるスポーツジム。若年層から高齢層までが使えるよう、多様なフィットネスマシンを多数備えてほしい。運動後に汗を流せ、体をケアできるよう温泉併設だとなお良い。
これから高齢者増える時代、鳥取には老人ホームが少ないと思います。 老人が安心して暮らせる様なれば家族も安心して働けると思います。
介護施設、保育施設に活用して欲しい。介護世代も子育て世代も仕事との両立が困難で、解決する手立てもない。
⑪市民(学生等)が自由に使える屋内施設(待つ空間・時間を使える空間)
誰もが自由に利用出来る場所にして欲しい。
周りの施設とか考えたらこれがいいのかと思った。
若者が楽しく遊べ学んだり出来る施設又は観光に来た人が、立ち寄り見学出来て癒される施設がいいと思う。例えばサンドアートとか砂絵等の砂に関係ある展示や遊べる施設など。
⑫緑地公園に併設した屋内施設(情報発信施設・ワーケーション施設等)
人が集まれるコミュニティ イベント カフェ有 (隼Lab のイメージ)
防災も考えた施設を併用したもの。(屋外施設)
周辺の様子を見て、緑地公園を軸としての他多目的広場が良いと考えたから。
⑬その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ランドマークタワーとなる高さ制限ギリギリの高い建築物とする ・災害時避難所機能を備えた複合型のマンション ・文化、福祉、コミュニティー等々の機能を下層部に、上層部を分譲マンションに ・最上階に展望レストラン、屋上に展望大浴場を設ける ※民間活力と資金を活用してやれば十分採算の取れる事業として成り立つと思う。
夏だけでなく、春、秋、冬でも傘踊り体験出来る場所があれば楽しいと思うから。 事業所だけでなく、個人でも販売出来るようなフリーマーケットのスペースがあれば、ショッピングも楽しいし、衣類や他物品(要らなくなった物)の廃棄処分も減って良いと思うから。
子供達が、知らない大人と一緒に、読書や室内遊び(親が働いて1人になる事がある子供)(特に休日・冬休み中)が出来る場。(開放公民館のような場)大声を出してもいい広場、体育館のイメージ
⑭娯楽・レジャー
市の中心に人を集めるためにも日帰りの温泉施設があれば集客につながり周囲の発展につながるため。
子供が楽しめる場所が欲しい
鳥取には、駐車場がある映画館がなく、行きたいと思ってもなかなか足を運びにくい。子供がいる世帯にとっては映画館があると夏休み等とても助かる。 映画館は幅広い年齢層で利用でき喜ばれる施設だと思う。
⑮イベント広場(出店しやすい工夫をした市場)
カルチャースクールなど県民会館と相互協力できる施設。広場には、スケボーの手すりなどオリンピック競技で大阪府松原市がしたような設備充実。鳥取市に住みたいと思うような施設がほしい。例えば、eスポーツの大会が開催できるプロジェクター併設型ホールなど。

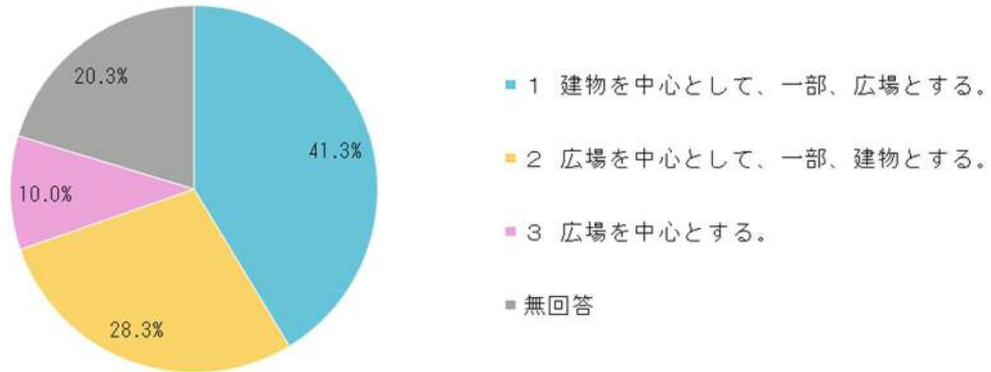
若い世代の人がより活躍でき活気ある町にしていくのに良いと思うから。 個人の出店などもしやすい広場に、定期的なみんなで集まれるイベントやステージなどにもなるような、場所があるとまちも活気がわくと思う。
週末のマルシェ等、商店街のイベント、バザーブースに活用。箱物(建物)はいいません。 メンテナンスに経費がかからないシンプルな広場を希望します。
⑩カフェ併設広場
フリースペースとして使用 時代の変化に対して今後を考える、大型箱物は建てないこと 防災の面から、広場は活用しやすい。面積的にグラウンドに匹敵する広場を町中につくるのは、憩いの場としても意味がある。50～60代がくつろげるスペースとして、Drink コーナーのような建物はあると、暑さなどから避難もできる。
・近辺を歩いている人がふらっと寄りたくなるような緑地 ・広場だけではつまらないので、休憩できるようなカフェ ・子供が遊べるような遊具 ・商店街利用者も車をとめられる駐車場 ・お祭りなどもできるようなフリースペース、出店がたくさん並ぶような
⑪緑地公園
市内中心部に緑豊かで憩いの場として利用できるエリアがあると、賑わいを無くしつつある商店街に活気が生まれると思うから。 また、周辺施設で会議やイベントがある際に、待ち時間に一息つける空間としても利用できる。※屋根がついている箇所や併設駐車場があるとより有効に活用でき、利用が盛んになると思われる。
鳥取市には緑化公園が少ない為、誰でも気軽に使用出来る憩いの公園。 キッチンカーも乗り入れ可能な緑地公園 年配の方やファミリーも集まれる公園
⑫庭園
鳥取には緑の公園や庭園が少なく人があつまらない 鳥根県の足立美術館のミニで市民も潤いたい庭園を造ってほしい。建物ばかりにこだわる必要は無いと思う。 病院が近いので気分転換にきれいな庭園を見ながら散歩出来るので良い。
⑬大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園
病院も近くにあり、県庁も近く、交通の便も良いから災害の時良いと思う。 市内に緑が少ない(街路樹を含めて) 災害時の避難場所を兼ねた場所であって、通常は”憩いの場所”が大切である。 障がい者(車イス)等に対応出来る避難所がないので、その機能を持った公園
⑭体験型防災公園
今後、防災に対する備えが一番大切になると思います。鳥取大地震や鳥取大火災などを忘れない為、記念館や体験できる設備があればいいと思います。 防災を体験できる施設 ・建物からの避難方法 ・エレベーターからの避難方法とか 鳥取市内(駅あたり)に大きい公園がないと思うので、備えも含めて防災公園が良いと思います。 市役所にも防災の備えがあることは存じていますが一極集中より分散しておいたほうが良いのかなと思います。
⑮その他
(一社)日本RV協会が認定するRVパークを公設で行うことにより、近年増加しているキャンピングカーでの車中泊を行う方々に鳥取の中心地に泊まってもらい、飲食店、温浴施設や仁風閣等の観光施設にも立ち寄ってもらうことで地域の活性化の一助にする。 本庁舎跡地周辺、JR 駅周辺に行く場合、いつも足が遠のくのは駐車場の事になります。跡地を無料駐車場にしていいただいたら、商店街を私達は歩きます。少しは買い物客も増えないでしょうか。 鳥取市の一番西に位置する為何が作られても利用する事が少ないので意見有りませんが建物(施設)等は良くないでしょう。後々管理が大変ですから 民間企業による商業施設の誘致

(4) 跡地の活用方法 (イメージ)

建物と広場の使い方としてのイメージ

3つの選択肢のうち1つを選択

・1 建物を中心として一部広場 (41.3%) が最も多く、次いで「2 広場を中心として一部建物」 (28.3%) であり、「3 広場を中心」 (10.0%) が最も少ない。



3 団体・個人からの主な要望等

区分	年月	意見・要望要旨	要望団体	備考
団体	H29.8	●市民会館を取り壊して、庁舎跡地と一体的に活用 ●市立美術館建設	鳥取東部美術家協会	懇談会
	H30.4	●市立美術館建設	鳥取市立美術館建設を願う会	市長面談
	H30.6	●鳥取市立美術館建設のお願いについての陳情	鳥取市立美術館建設を願う会	議会 H30 陳情第7号
	H30.9	●深澤市政の基本的な考え方を示してほしい ●計画・策定・実施までのスケジュールを示してほしい ●事業に利用される財源について説明してほしい	遷喬地区	地区要望
	H31.2	●「にぎわい、ふれあい、たすけあい」の拠点施設整備を ①生涯学習センター、芸術文化ホール、屋内こども広場を核とした複合型公共施設整備 ②既存の公共施設（福祉文化会館、文化センター、市民会館）の統合化 ③現庁舎等の速やかな解体・撤去	鳥取商工会議所	市長面談
	R1.8	●文化団体それぞれの活動が集え、発表できる場、練習の場、総会等ができる場を望む	文化団体協議会	鳥取文化を語る会
	R1.10	●「大学コンソーシアム鳥取」を設立し、産学官民が主体的に参加し、協働して活動できる場と機会を構築（日本庁舎の減築） ●世界の交差点「国際広場・因幡鳥取」の構築	鳥取県経済同友会	副市長面談
	R1.12	●多くの市民の意見を参考にして「市役所跡地利用計画」を早急に取りまとめられたい	日本労働組合総連合会鳥取県連合会	政策・制度に関わる要請書
	R2.6	●日本庁舎は解体せず、6階を4階に減築、同時に耐震補強を実施し中心市街地の公共施設として引き続き利用 ●駐車場は市民・観光客には無料、近隣事業者には低料金で提供	開かれた市政をつくる市民の会	公開質問状
	R2.8	●文化団体の活動が集え、発表できる場、練習の場、総会等ができる場を望む【再掲】	鳥取市文化団体協議会	鳥取文化を語る会
	R2.9	●市民の憩いと経済活動の拠点となるオアシス（多目的広場） ●第二庁舎跡地を立体駐車場として活用	明鳥会	メール
	R2.10	●専門的音響環境の整った音楽小ホール整備についての要望	鳥取市に音楽小ホールを願う音楽家の会	意見交換
	R3.8	●日本庁舎地の活用を未来の子どもたちのために（遊具を設置した緑地公園）	とりっこワールドかけだし	市政提案
R3.10	●NHK 鳥取放送局 放送会館移転	日本放送協会	文書	

区分	年月	項目	備考
個人	R1.6	郵便局の移転活用	市民の声
	R1.8	賑わいが出る街づくりにつながるような活用	市民の声
	R1.11	10階以上のマンションを民間企業と共同で建てる	市民の声
	R1.12	市庁舎跡地を緑の広場に	新聞掲載
	R2.2	高齢者住宅	市民の声
	R2.2	大きな映画館、スケートリンク等、若者の遊べる場所	市民の声
	R2.10	コンパクト芸術都市(すてきな、ちいさな音楽ホールを鳥取市に！)	新聞掲載
	R2.10	老人ホーム	コールセンター
	R2.10	無料駐車場	市民の声
	R2.10	地域交流スペース	来庁
	R2.11	美術館にシネコンを併設。コンサートホール・劇場・美術ギャラリーの複合化	手紙
	R2.11	市民が憩うゾーン	市民の声
	R2.11	鳥取市立美術館の建設	来庁
	R2.12	市民が常に集うことができる公園、地下駐車場、地下防災用品備蓄設備	アンケート
	R2.12	旧本庁舎をミュージアムとして再生	市民の声
	R3.1	砂博物館、砂の博物館、水族館	メール
	R3.3	スーパー・ホームセンター・服屋・銀行ATMのあるショッピングモール	市民の声
	R3.3	災害時の複合的な避難タワー	市民の声
	R3.4	郵便局本店移転	メール
	R3.6	アニメーション会社を誘致する。鳥取市をアニメーションの聖地に	市民の声
	R3.8	公園	市民の声
	R3.8	子どもも大人も気軽に集える場	市民の声
	R3.9	先を見据えたまちづくりプランが見えるもの	新聞掲載
	R3.9	文化・芸術施設の整備が有効。鳥取市立美術館	新聞掲載
	R3.9	将来の活用策を見通し汎用性の高い緑地公園	新聞掲載
	R3.9	NHKの移転整備	新聞掲載
	R3.9	NHK鳥取放送局の移転先	提言書
	R3.10	多目的な広場	新聞掲載
	R3.10	身体が不自由な子、乳幼児も安心して遊べる遊具が設置された緑地公園	新聞掲載
	R3.10	NHKへ条件を付し有償譲渡	市民の声
R3.10	公園ではなく地域に開かれた利用	市民の声	

4 地域振興会議等での意見

機能	跡地に必要と思う主な活用策
A 教育・学習・ 芸術・文化	小学校統廃合、市民会館と一体的な活用、県立博物館移転、芸術作品 展示スペース、まんが図書館、音楽小ホール
B 医療・福祉・ 健康増進	健康増進スペース、日赤の活用
C 憩いの場・ コミュニティ	運動・会議のできる広いスペース、高齢者もくつろげる施設
D 娯楽・レジャー	
E オープンスペース	緑地、公園、広場、芝生広場
その他	駐車場、消防署、NHK、売却、企業誘致、スケートリンク、住宅な ど

今後のスケジュールについて

時期	項目	協議事項
本日 10/25	第1回 キックオフ	<ul style="list-style-type: none"> ・旧本庁舎等跡地活用に関する提言書 ・市民意見（ワークショップ、アンケート、要望等） ・提言内容について検討すべき課題・問題点 ・今後のスケジュール
11月上旬	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・関係法令等における課題・問題点の整理・議論 ・防災・減災機能として必要な設備
11月下旬	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・提言内容を踏まえ検討すべき課題・問題点の整理、解決策の確認
12月	公表	一定の方向性の公表（目標）
12月以降	庁内検討	以降、具体的な検討

※この間、随時、「本庁舎跡地等活用に関する調査特別委員会」にも報告しながら進めることとします。